

米国の社会と日常生活：私が見た 98年と 08年

神戸大学経済経営研究所

下村 研一

私は 08 年の 1 年間と 09 年の 2 ヶ月間、アメリカのカリフォルニア工科大学（略称はカルテク）で在外研究を行なう機会に恵まれた。カルテクはロサンゼルス隣の市パサデナにあり、理工系の独立したさまざまな分野の学科、そして人文社会科学部という文系をひとまとめにした学部を有する。私は人文社会科学部に客員研究員として滞在した。実はその丁度 10 年前神戸大学の前任校に在勤中、98 年の 1 月から 12 月まで文部省の若手在外研究員の派遣で、カルテクの人文社会学部に受け入れてもらった。そのときの研究と生活の環境が非常に良かったので、今回も在外研究の希望をカルテクに申し入れたところ、受け入れは快諾されカルテクで授業も会議もない研究三昧の日々を過ごすことができた。だが、今回身を置いたアメリカの社会と日常生活は 10 年前と違い、さまざまな状況が日々大きく変わるという経験をした。以下詳細を述べよう。

98 年のアメリカは IT 革命の真最中で国内の経済はすべてうまくいっていた。一方日本はまだバブル崩壊後の不景気が続いていたので、為替レートは一年を通じて 1 ドル 140 円台という円安ドル高であった。だが年の初めはエルニーニョ現象による集中豪雨で南カリフォルニアは「住宅が壊れた。街路樹が倒れた」というニュース一色だった。南カリフォルニアの海にせり出して建っている豪邸が岸壁とともに次々と崩れ落ちる画像が毎日テレビに映し出された。しかしその修復工事のため建設や土木の雇用が増えて失業者は減ったため、景気は悪くならなかった。その後は、株の高騰、ビル・クリントン大統領の弾劾裁判、カーディナルスのマーク・マグワイア選手の本塁打大リーグ記録更新の三大話題が日々のニュースの大半を占めた。他の大リーグの話題としては、シーズン途中での野茂英雄投手とマイク・ピアザ捕手のドジャーズ退団があり、南カリフォルニアの地元市民は非常に落胆した。しかし、好景気は大統領の弾劾裁判や野茂・ピアザの退団などの良くない部類に入るニュースを世間に忘れさせていた。

08 年に再訪したアメリカは、状況が一変しサブプライムローンから派生した金融危機に襲われていた。07 年の初めまでのアメリカは住宅バブルに沸き景気も良く、ロサンゼルスで働きパサデナに住む人が激増していた。07 年秋にアパートをパサデナで探したとき、賃貸住宅の物件は本当に少なかった。大学の近

くで 98 年月 900 ドルであった賃貸のアパートは月 1200 ドルになっていた。それが 08 年は道を歩けば「For Rent」「For Lease」そして「For Sale」の看板がどんどん増えるのがわかった。家の持主が自宅のローンを払えなくなり手放したのである。家賃の値下げも始まり、私が借りていた家具なしのアパートも私の退居後月 100 ドル値下げされた（09 年 12 月現在まだ空いているそうである）。

アメリカの不景気の全世界浸透のあおりを食らった日本も不景気になったが、本家の不景気はそれをはるかにしのぐものであった。渡米前の 07 年 8 月に円からドルに換金したとき為替レートは 1 ドル 123 円、それが 09 年 2 月の帰国前は 97 円だった（09 年 12 月現在は 88 円である）。アメリカの大学はその財源の相当部分を企業からの寄付に依存しており、好景気のときは多額の寄付金が集まり、その結果教職員の募集が増え、大学院生への奨学金も大盤振る舞いになる。そして不景気のときはその正反対である。カルテクは資金の潤沢さには定評のある大学である。しかし 08 年の不景気ではさまざまな部署の業務内容の見直しや人員整理が決定された。その中で驚いたのは「ブックストアで本の販売を取りやめる」という決定である。教員と学生には本を各自ネットで購入してもらい、ブックストアでは文房具・T シャツ・トレーナー・マグカップなどを学生アルバイトに販売してもらうことで、本を販売するための専門知識を持つ店員を雇用しないという訳である。IT が発達した現在確かに合理的ではある（のだが）。

そしてオバマ氏対ヒラリー・クリントン氏の大統領予備選挙とオバマ氏対マケイン氏の大統領選挙。私はアメリカで顔写真入りの選挙ポスターは見たことがない。その代わりよく見たのが候補者の名前入りの旗だった（風のないときでも名前が見えるよう棒が左右についた横断幕式のものである）。さらにカリフォルニア州での大統領選挙の投票が終わった後でもオバマ氏とマケイン氏の両者の旗は増え続けるという不思議な現象を見た。その謎はカルテクに日本から来ていた客員の先生からの情報により解き明かされた。旗がスーパーで売っていたそうである。民間人が候補者応援のため自ら買い自宅前に立てていたのだ。

野茂とピアザは 08 年に揃ってロサンゼルスから離れた場所の球団で引退した。同年ドジャーズには斎藤・黒田と 2 人も日本人の投手がいた。98 年の本塁打王マグワイア選手は薬物疑惑により大リーグ記録が疑問視されていた。だが、今思い返しても野球や北京オリンピックなどのスポーツ関係の報道がメディアで加熱していた記憶はない。08 年のアメリカ社会の話題はやはり金融危機と大統領選挙に終始し、日常生活もそれらに左右された感がある。米国民の失望と希望を毎日見聞きしたことはやはり在外研究と同等に得がたい経験だったと思う。